

船曳網の漁況経過と春シラス漁の見通し

(1) 船曳網の漁況経過について

現在の船曳網の漁模様は、県中南部を中心に全域でシラスが連日水揚げされています。

コウナゴは、3月19日に大津で県内初水揚げがありました。その後はほとんど漁場が形成されず、3月中に計20kgと、非常に少ない水揚げとなりました(図1)。

一方シラスは、船曳網解禁直後の2月は、昨年同時期は下回ったものの、平年を上回る水揚げとなりました。その後3月下旬に入り再び漁獲され始め、4月の県内水揚量は平年をやや上回る138t(速報値)となっています。4月に漁獲されたシラスはマシラス(マイワシシラス)主体であり、例年主体となるカタクチシラスは1割程度でした。4月下旬~5月上旬に県中南部で漁獲されたシラスにはカタクチイワシの混じりが2割~5割程度みられたものの、依然としてマシラスの割合が高い状況です。図2に、5月2日のNOAA人工衛星水温画像を示しました。本県沿岸域の海況は、黒潮からの暖水波及はそれほど強くないものの、全域が暖水に覆われた状態となっています。現在漁獲されているシラスは、この暖水域に滞留しているものだと考えられます。

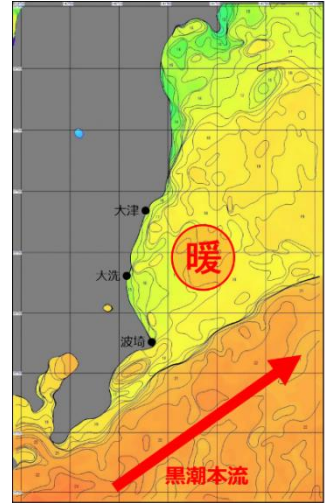


図2: NOAA 水温画像 (5/2)

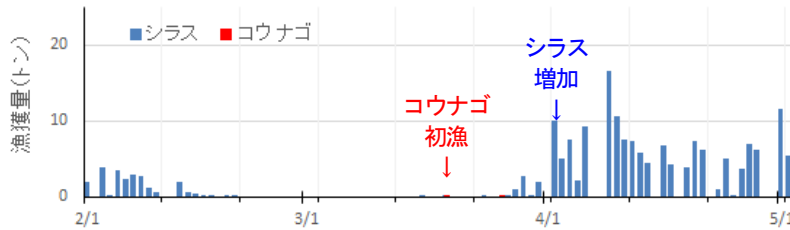


図1: 日別船曳網漁獲量の推移

(2) 春シラス漁の見通しについて

①海況の見通し

本県沖の今後1ヶ月の水温は「平年並み~やや高め」で推移すると予測されています(「水産の窓30年-No.4」参照)。また、海況予測モデルFRA-ROMS(国立研究開発法人水産研究・教育機構-中央水産研究所提供)によると、今後も本県沿岸域に強い暖水波及はみられないものの、暖水が残存すると予測されています。

②カタクチイワシ親魚の資源状況・卵の分布状況

例年漁獲の主体となるカタクチシラスの産卵親魚(大型のカタクチイワシ)は、茨城・千葉の漁獲状況から今年も低水準と考えられます。また、カタクチイワシ卵の採集量は、4月中旬に実施した海洋観測調査で沿岸域にわずかにみられたのみでした。

一方、平成29年春シラス漁の4~5月に主体となったマシラスの産卵親魚は、近年増加傾向にあり、まき網による漁獲が今年も好調に推移しています。また、マイワシ卵は、4月中旬に実施した調査で沖合域を主体に多く採集されたほか、仔魚も多く採集されました。

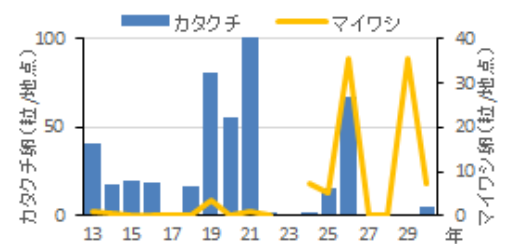


図3: 4月の海洋観測調査における茨城沖卵採集量

【まとめ】

本県沿岸域には今後強い暖水波及がみられない予測であることから、シラス卵稚仔の急激な増加は期待出来ないものの、引き続き暖水が残存する見通しとなっています。そのため、マイワシの産卵期(5月頃まで)を考慮すると、6月頃までマシラス主体の水揚げが継続すると考えられます。一方、現時点のカタクチシラスおよび本県周辺のカタクチイワシ資源と卵分布量は低水準であり、カタクチシラスの加入は少ないと見込まれることから、今年の春シラス漁獲水準は「中漁(300~1,000ト)」と予測されます。

(回遊性資源部 鈴木 裕也)

【次号予告】H30.5.15の「水産の窓」は、「5月の海況と今後の見通し」を予定しています。